

それでも私は看護師になりたい

—早期体験実習記録の分析から—

NTTデータ 数理システム

2013年度 学生研究奨励賞 提出論文

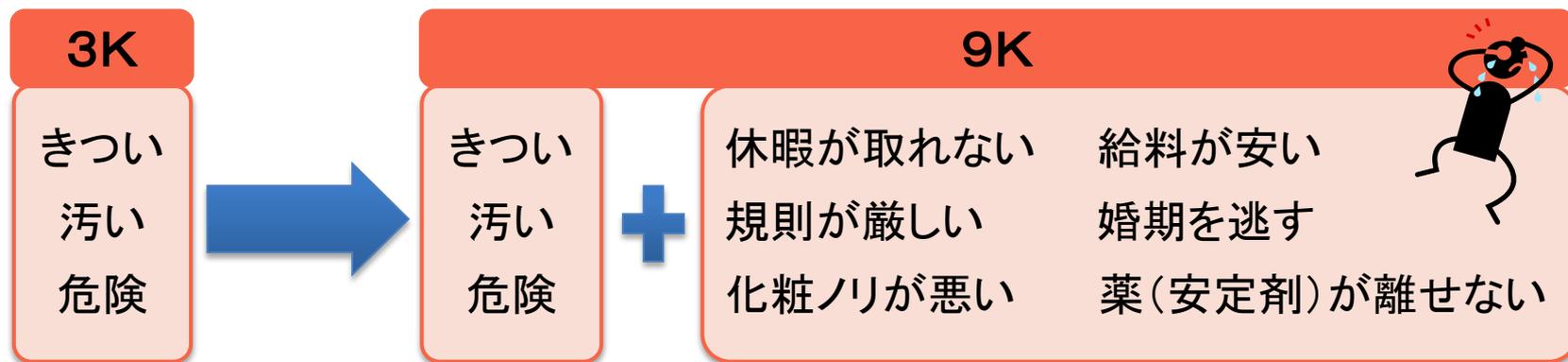
東京医科歯科大学大学院
保健衛生学研究科 博士(前期)課程
塩田 朋未

内容

1. はじめに
2. 看護分野に特有な高等教育
3. 理想と現実のギャップに葛藤する学生
4. 研究目的
5. 早期体験実習の概要
6. 調査対象
7. 倫理的配慮
8. 分析方法
9. 研究結果・考察
10. シーソーモデル
11. 概念図
12. 結論
13. 今後の展望
14. 引用・参考文献

はじめに

- 看護師は人を対象としている職業であり、専門の知識や技術を提供するばかりでなく、人間に対する深い理解や専門職としての責任感という社会的成熟も必要とする職業である。
- 厚生労働省によると、平成23年の看護師不足数は全国で約5万6千人で、看護師の養成促進、定着促進、再就業支援が目下の急務となっている¹⁾。
- かつて看護師の仕事は「3K」と言われた。今では「9K」とも言われ、不況の時代でも生き抜ける安定した職業であるにも関わらず、過酷な労働のイメージを助長させている。



はじめに

- 「看護師になりたい」と夢見る看護学生（以下、学生）は、看護師の漠然としたイメージや理想の看護師像を思い描き、看護系大学に入学する。
- しかし、現実の看護の世界は決して華やかではなく、9Kと言われるほど過酷な労働を強いられている実状を学生は実感していない。

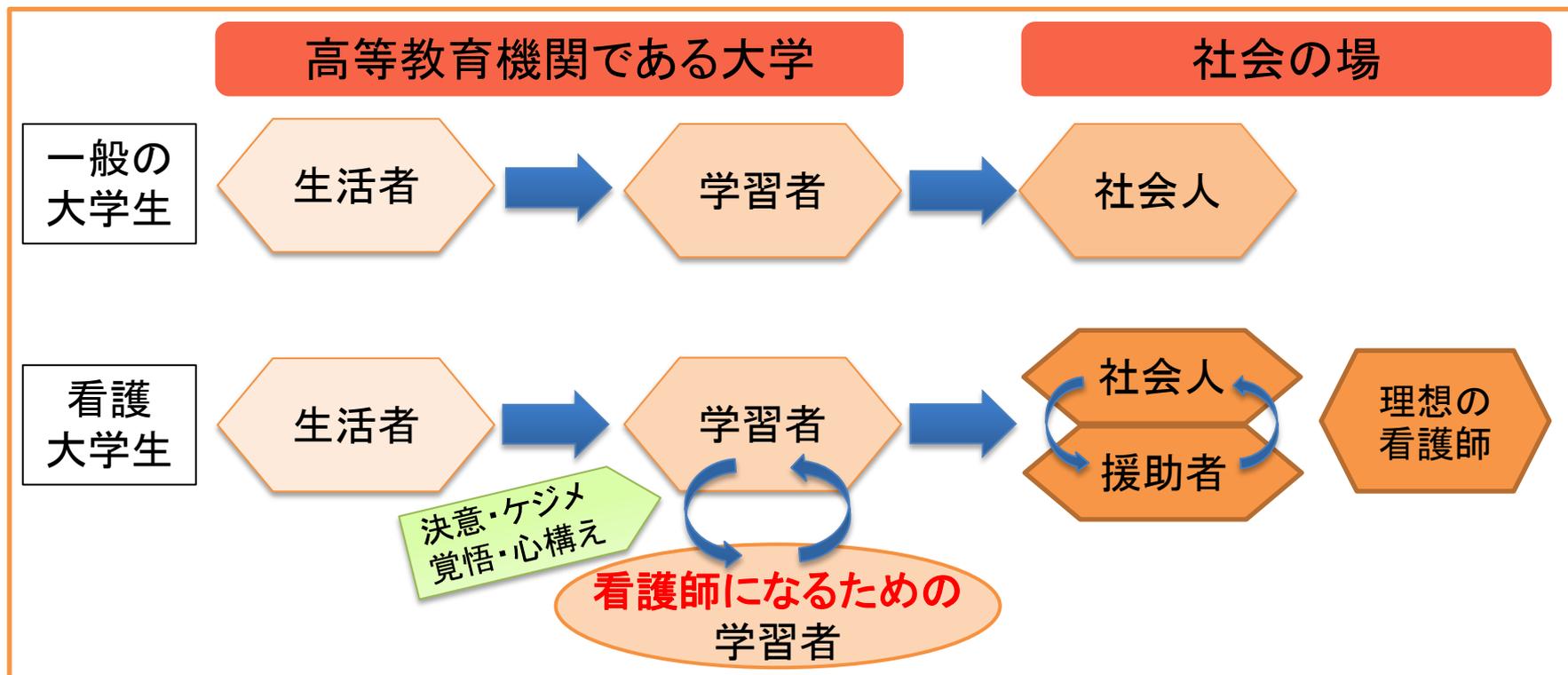
- ・白衣の天使のイメージ
- ・患者から頼りにされる
- ・国家資格のため不況の時代でも生き抜ける



看護師の9K

看護分野に特有な高等教育

- 高等教育を受ける大学生は、知識・倫理・技術などを深く学び、理論や実践を身に付ける。
- 看護系大学は、社会の変化に応じて期待される質の高い看護師を養成するという役割を果たさなければならず²⁾、看護師を志す学生はその期待に応えるべく将来必要とされる理想の看護師像を構築させながら看護学を学ぶ。

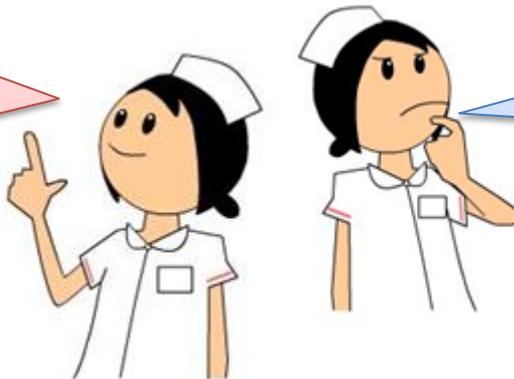


看護分野に特有な高等教育

- 看護学教育の大きな特徴として、臨地実習による教育がある。
- 早期体験実習は、学生が専門科目を学ぶ前、あるいは学び始めた段階で行われる。
- 早期体験実習は、看護専門職者としての自覚を促し、学習の動機づけを図る、看護の役割を知る、対象理解を深める、対象者とのコミュニケーション等をねらいとして、これまでに様々な取り組みがなされてきた³⁾。

早期体験実習の利点

働く看護師の姿を見ることで、看護の仕事を現実的に捉えることができる。

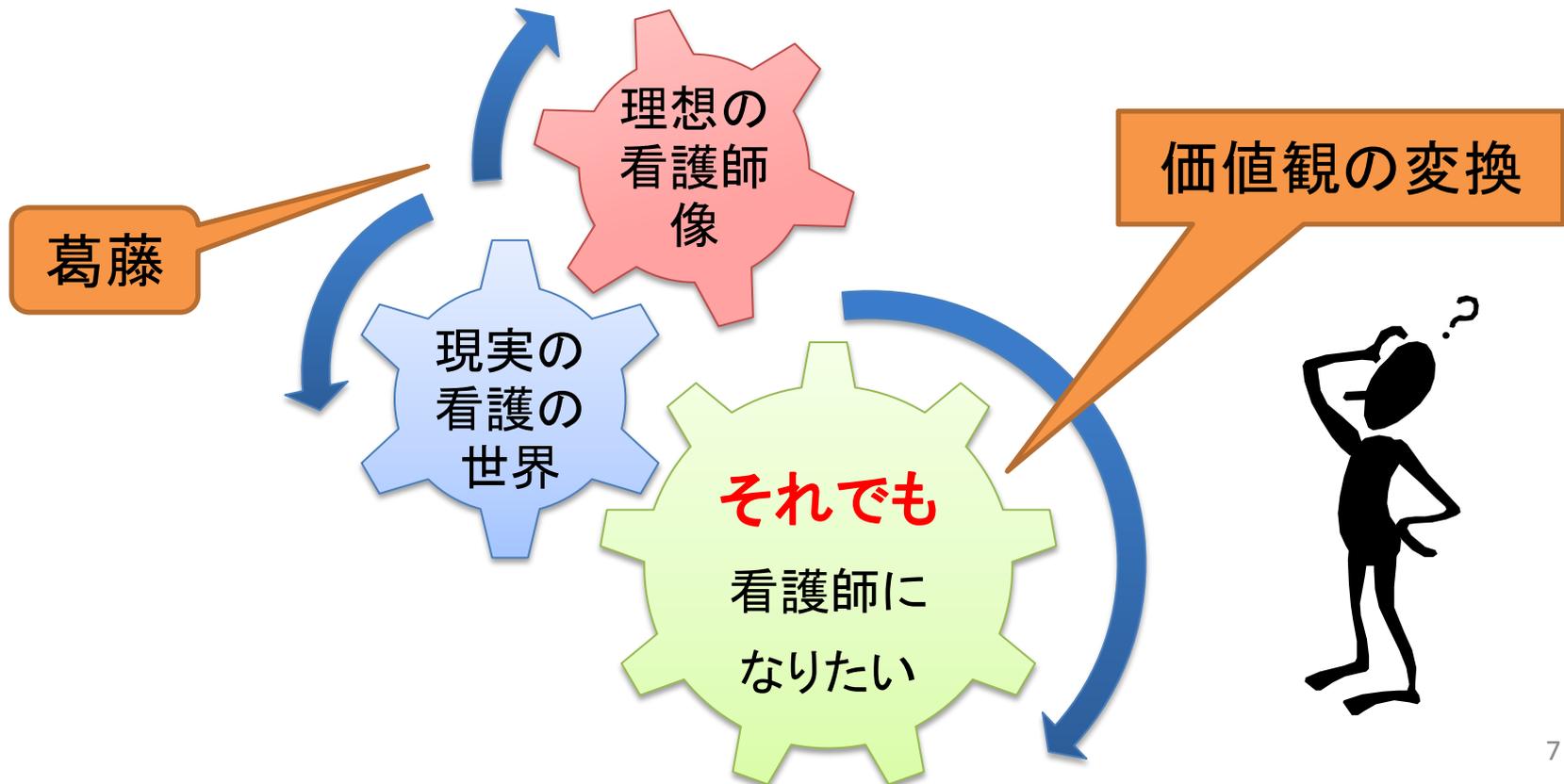


早期体験実習の欠点

現実の看護を見ることで、理想が崩されてしまう。

理想と現実のギャップに葛藤する学生

- 学生は実習中、看護師の大変な状況や過酷さを目の当たりにし、理想と現実のギャップに葛藤する。
- その葛藤を経て、「それでも看護師になりたい」と思わせる要因は何かと疑問を抱いた。



研究目的

以下の4点を明らかにする。

1. 早期体験実習を行った学生は、どのような感情を表出するか。
2. 感情によって【体験したこと】に違いがあるか。
3. 感情に関係なく【学んだこと】があるか。
4. 感情によって看護師になりたいと思う過程に違いがあるか。

早期体験実習の概要

実習目的

- 学習の初期段階において、医療の場を知り、健康障害をもった人々と直接関わることを通して、看護の機能と役割について理解する。また、本実習を通して、看護学を学ぶ学生としての態度を形成し、今後の学習の動機づけとする。

実習時期

- 大学1年次の8月中（実習期間は4日）

<具体的方法>

- 1) 病棟でどのような職・役割を持った人々が協働しているのかを知る。
- 2) 病棟での看護の特徴を知る。
- 3) 療養環境としての病棟・病室環境の特徴を知り、マップを作成する。
- 4) 様々な場面における看護活動を見学する。
- 5) 患者との会話を通し、1日の過ごし方や入院生活の様子を知る。

調査対象

- 早期体験実習を行った看護学専攻の1年生54名が記述した実習記録を調査対象とした。
- 実習記録には、実習を振り返り学んだこと、気づいたこと、感じたこと、反省や今後の課題について記述された。

倫理的配慮

- 対象者には、講義終了後に研究の主旨、研究参加に伴う利益・不利益、および個人情報保護について記載した文書を配布、口頭で説明し、同意を得た。
- 同意を得られない場合には、対象者から除外した。

分析方法

事前処理として
4つのカテゴリーに分類

カテゴリー分類は
看護学研究者6名で行った。

【感じたこと】

学生が喜怒哀楽などの感情を
表出した内容

【体験したこと】

学生が看護師の働く様子
を見聞きした内容

【学んだこと】

学生が学びと解釈した内容

【すべきこと】

学生の今後の課題や目標、看護を学ぶ
学習者としての心構えを記述した内容

テキストマイニング分析
(Text Mining Studio 4.2 を使用)

全体の基本情報

評判分析

『ポジティブな感情の学生』
単語頻度解析
注目分析

『ネガティブな感情の学生』
単語頻度解析
注目分析

『ポジティブな感情の学生』
単語頻度解析

『ネガティブな感情の学生』
単語頻度解析

感情を表出した学生
ことばネットワーク

係り受け頻度解析
ことばネットワーク

全体の基本情報

表1. 原文全体の基本情報

	【感じたこと】	【体験したこと】	【学んだこと】	【すべきこと】	合計
学生数	20	38	42	38	54
総行数	36	104	134	71	345
平均行数(文字数)	24.2	27.3	28.4	27.9	27.0
総文数	36	104	134	71	345
平均文長(文字数)	24.2	27.3	28.4	27.9	27.0
延べ単語数	312	1,081	1,367	722	3,482
単語種別数	172	479	523	334	—

- 【感じたこと】を記述した学生は20名、総行数は36で最少だった。
- 【学んだこと】を記述した学生は42名、総行数は134で最多だった。

全体の基本情報

表2. 原文の品詞と出現回数

	【感じたこと】		【体験したこと】		【学んだこと】		【すべきこと】	
1位	名詞	201	名詞	716	名詞	992	名詞	491
2位	動詞	56	動詞	264	動詞	251	動詞	135
3位	副詞	29	副詞	49	副詞	64	副詞	51
4位	形容詞	21	形容詞	29	形容詞	37	連体詞	23
5位	連体詞	5	連体詞	9	連体詞	18	形容詞	18



形容詞と副詞だけに注目すると・・・

表3. 形容詞と副詞の合計(割合)

【感じたこと】	【体験したこと】	【学んだこと】	【すべきこと】
50(16.0%)	78(7.2%)	101(7.4%)	69(9.6%)

- 名詞は全てのカテゴリーに共通して最多で、次いで動詞、副詞と続いた(表2)。
- 形容詞と副詞の合計は、【感じたこと】50回(16.0%)が最多だった(表3)。

【感じたこと】には感情を表現する言葉や語尾などを含むため、学生がポジティブな感情を持つか、ネガティブな感情を持つかを知るために評判分析を行った。

評判分析

カテゴリデータ作成ツール

分かち書き : オリジナルテキスト
 カテゴリルール名: カテゴリルール

カテゴリチェック表

カテゴリ順
 多い順 少ない順 ルール順 自動ソート

表示切替
 全文 文章単位 行単位

全カテゴリについて
 含まれる 含まれない 解除

ファイルID	行ID	文章ID	ID	原文	Positive	Negative
1	1	-1	4	学生は看護師から患者が声を失う前夜に患者自身の声を録音したり、歌ったりするというエピソードを聞いて、とても心が痛んだ。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
1	2	-1	10	学生は想像していた看護師像、他の医療者との関係は良い意味で壊され、ショックを受けることもあった。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
1	3	-1	12	学生は患者さんとコミュニケーションを取れなかったのが悔しいと感じた。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
1	4	-1	13	学生は看護師は体力が必要であることは分かっていたつもりだったが、それを少し体験したことで、今のままでは到底看護師など出来ない不安な気持ちになった。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
1	5	-1	14	学生は看護師が病室を訪れるときの患者との何気ない自然な会話のやり取りを素敵だと思った。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1	6	-1	14	学生は看護師として近くで患者さんのことを支えたいという思いが強くなった。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1	7	-1	16	学生は自分が看護師を目指しているのだと思うと、何年後かに働けるだろうか不安になった。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
1	8	-1	17	学生は本当に看護師になれるのか今でも心配ことはたくさんあると感じた。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
1	9	-1	24	学生は看護師のやりがいを見て感じられ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

←カテゴリルール編集へ 統計情報の表示 (動作が遅くなります)

属性の生成 チェック表ファイル保存 カテゴリデータ生成

原文のカテゴリチェック表で以下の作業を行った。

- ①ポジティブ・ネガティブのチェックが妥当かどうかを確認した。
- ②チェックのないものにはチェックを入れた。

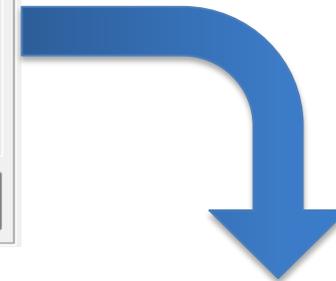


表4. 感情の内訳(文)

ポジティブな感情	ネガティブな感情	両方の感情	合計
18	16	2	36

評判分析

表5. 被好評語・被不評語ランキング

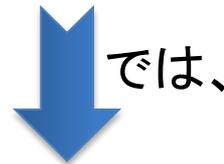
被好評語ランキング		被不評語ランキング	
気遣い	2	患者	-3
やり取り	1	気持ち	-3
看護師	1	ショック	-1
意味	1	感情	-1
医療・看護	1	行動	-1
会話	1	自覚	-1
感心	1	自分	-1
イメージ	1	気遣い	-1
仕事	1		
刺激	1		
思い	1		
笑顔	1		
頭の回転	1		
体力	1		

- 被好評語は14単語、被不評語は8単語であった。
- 被好評語には、「気遣い」「やり取り」「看護師」「会話」「笑顔」「頭の回転」「体力」があり、**看護師に必要な能力**を連想させる単語だった。
- 被不評語には、「気持ち」「ショック」「感情」があり、**人の感情を表す**単語だった。また、人は「患者」と「自分」があり、感情の対象となる単語だった。
- 共通の単語は「気遣い」であった。
- このランキングだけではこれらの単語がどのような評価を受けたのかわからない。

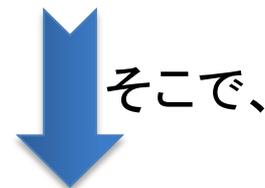
これらの被好評語・被不評語がそれぞれどのような評価語と共起されているかを知るため、評判分析ネットワークを行った。

【感じたこと】の考察

- 【感じたこと】にはポジティブな感情とネガティブな感情があった。
- 『ポジティブな感情の学生』は、現場の看護師の姿を見てやりがいを感じていた。
- 『ネガティブな感情の学生』は、現実の看護の世界を見たことでショックを受け、複雑な感情や辛い気持ちになったり、見た看護師と同じような気遣い出来るかどうかと自分に対して不安を感じていた。



感情によって【体験したこと】に違いがあるのだろうか？



【体験したこと】の中から、
『ポジティブな感情の学生』と『ネガティブな感情の学生』が体験したことをそれぞれ抽出し分析した。

感情を表出した学生が【体験したこと】

表6. 感情を表出した学生が【体験したこと】の基本情報

	『ポジティブな感情の学生』	『ネガティブな感情の学生』
総行数	35	31
平均行数(文字数)	27.3	26.6
総文数	35	31
平均文長(文字数)	27.3	26.6
延べ単語数	358	326
単語種別数	201	177

**感情を表出した学生がどのような体験をしていたかを知るため、
『ポジティブな感情の学生』と『ネガティブな感情の学生』に分けて
それぞれ単語頻度解析を行った。**

単語頻度解析

表7. 『ポジティブな感情の学生』が
【体験したこと】

	単語	頻度
1	看護師	26
2	患者	25
3	看護	5
4	声	4
5	ケア	3
6	会話	2
7	確認	2
8	貴重	2
9	研修医	2
10	言葉	2
11	行動	2
12	姿	2
13	時間	2
14	笑顔	2
15	話	2
16	対応	2
17	提供	2

表8. 『ネガティブな感情の学生』が
【体験したこと】

	単語	頻度
1	看護師	23
2	患者	22
3	話	8
4	声	4
5	パウチ	3
6	仕事	3
7	笑顔	3
8	看護	2
9	観察	2
10	研修医	2
11	場面	2
12	体験	2
13	勉強	2
14	傍	2

フィルタ条件

- ◆品詞: 名詞
- ◆頻度: 2回以上

- 看護活動に注目すると、『ポジティブな感情の学生』は、「看護」「声」「ケア」「会話」「確認」「笑顔」「話」「対応」「提供」があり、『ネガティブな感情の学生』は、「話」「声」「パウチ」「笑顔」「看護」「観察」があった。
- その中で共通の単語は、「看護」「声」「笑顔」「話」だった。

共通の単語でも【体験したこと】が同じであるとは限らないため、原文で内容を確認した。

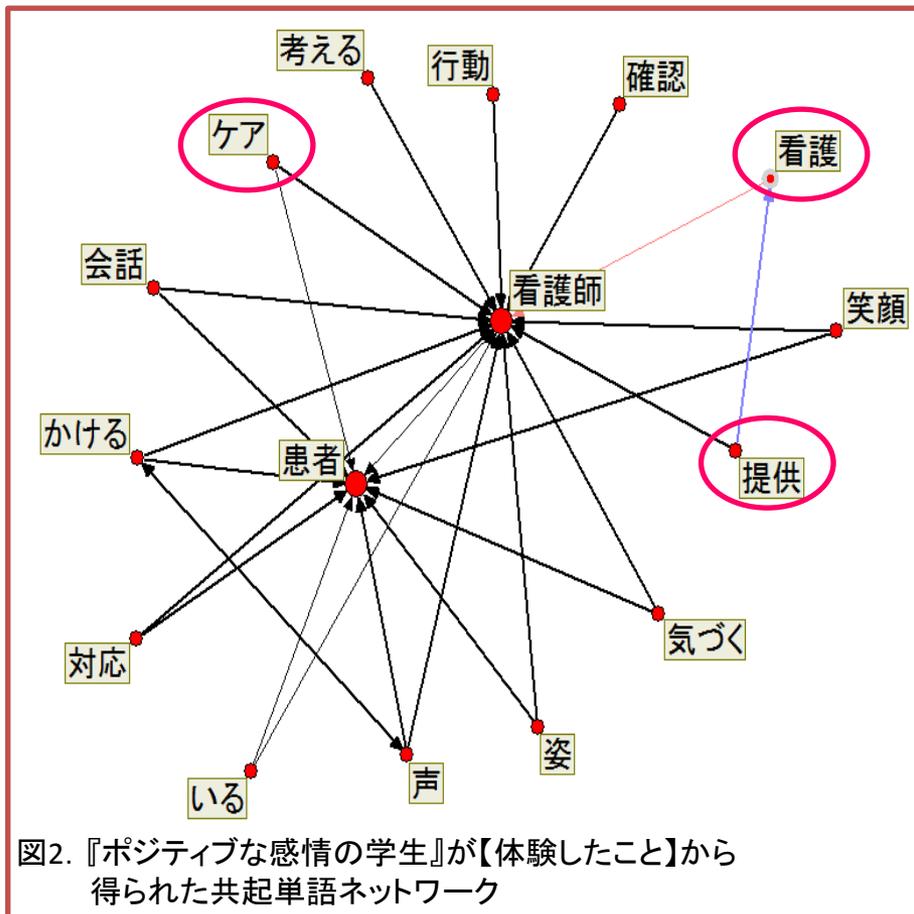
単語頻度解析

原文

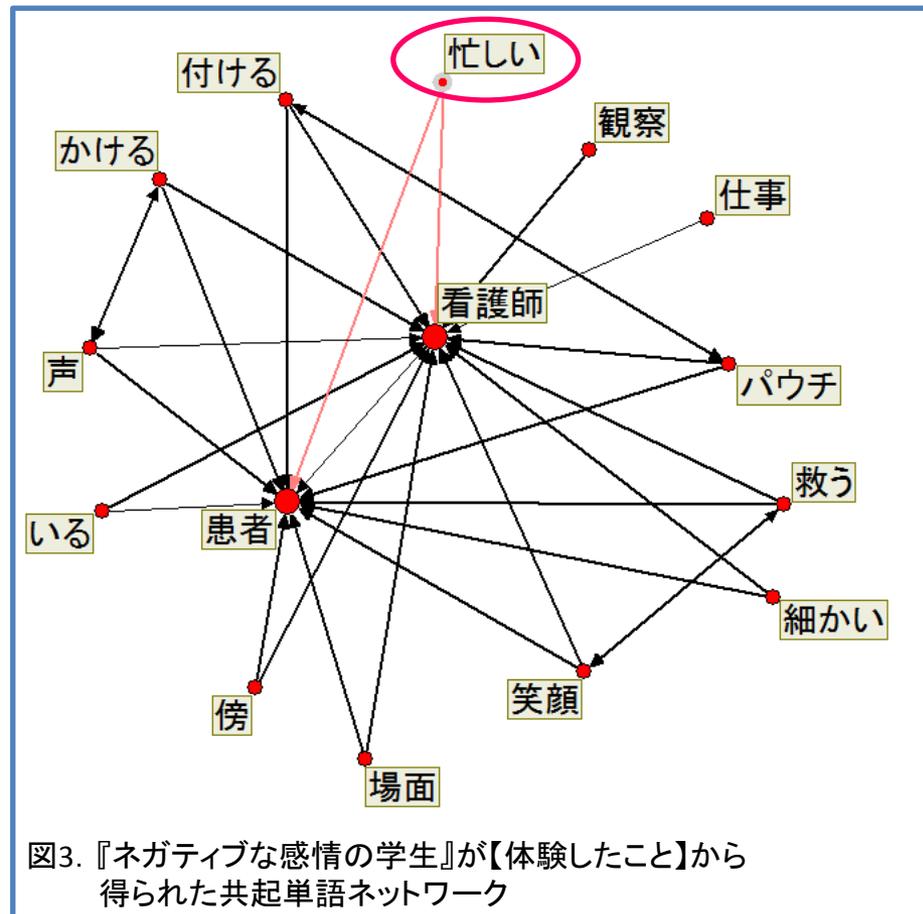
	『ポジティブな感情の学生』	『ネガティブな感情の学生』
看護	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師は患者に対して的確かつ正確に、親身になって看護を提供していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者と話をさせてもらった時、患者は看護に満足しているということを聞いた。
声	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医が患者に予告なく注射をしようとした場面で、傍にいた看護師がすかさず「ちくつとしますよ」と声をかけていた。 ・看護師が患者に優しく声をかけながら下のお世話をしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者は「看護師さんが“気分はどうですか”と笑顔で声をかけてくれるだけでも救われる」と言っていた。 ・患者にどう声をかけてよいのか分からない時があった。
笑顔	<ul style="list-style-type: none"> ・患者がそっけない態度でも、看護師がニコニコ笑顔で対応していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者から「看護師の細かい気配りや笑顔に救われる」という言葉を聞いた。
話	<ul style="list-style-type: none"> ・患者と話をする機会を頂き、とても勉強になった話があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者に話を聞いた際、「不安だったけれど医療者に支えてもらって心強かった」と言っていた。 ・患者に話を聞いた際、「あなたはとても良い仕事を選んだね」と言われた。

- 『ポジティブな感情の学生』は**看護師**を通して【体験したこと】が多く、
『ネガティブな感情の学生』は**患者**を通して【体験したこと】が多かった。

注目分析－「看護師」



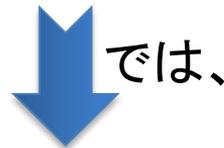
- 「看護」「提供」「ケア」が結びついており、看護師の看護活動を体験していた。



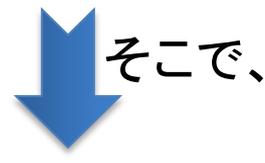
- 「忙しい」が結びついており、看護師の忙しそう場面を体験していた。

【体験したこと】の考察

- 『ポジティブな感情の学生』と『ネガティブな感情の学生』では、【体験したこと】が異なっていた。
- 『ポジティブな感情の学生』は、看護師を通して様々な体験をし、それを「看護」と捉えていた。
- 『ネガティブな感情の学生』は、忙しい看護師の姿を見る体験をし、直接患者から入院生活の話を聞いていた。学生が初めての実習で患者と1対1で話をする体験は、ネガティブな感情を抱きやすい。



感情に関係なく【学んだこと】はあるのだろうか？



【学んだこと】の中から、
『ポジティブな感情の学生』と『ネガティブな感情の学生』が学んだことを
それぞれ抽出し分析した。

感情を表出した学生が【学んだこと】

表9. 感情を表出した学生が【学んだこと】の基本情報

	『ポジティブな感情の学生』	『ネガティブな感情の学生』
総行数	34	19
平均行数(文字数)	27.3	29.2
総文数	34	19
平均文長(文字数)	27.3	29.2
延べ単語数	342	203
単語種別数	199	134

**感情を表出した学生がどのような学びをしていたかを知るため、
『ポジティブな感情の学生』と『ネガティブな感情の学生』に分けて
それぞれ単語頻度解析を行った。**

単語頻度解析

表10. 『ポジティブな感情の学生』が【学んだこと】

	単語	頻度	割合
1	看護師	21	10.3
2	患者	16	7.8
3	必要	5	2.5
4	看護	4	2.0
5	コミュニケーション	3	1.5
6	貴重	3	1.5
7	存在	3	1.5
8	仕事	3	1.5
9	自分	3	1.5
10	信頼関係	3	1.5

(上位10件を表示)

表11. 『ネガティブな感情の学生』が【学んだこと】

	単語	頻度	割合
1	患者	9	7.4
2	看護師	8	6.6
3	看護	6	5.0
4	ケア	3	2.5
5	貴重	3	2.5
6	存在	3	2.5
7	呼吸	2	1.7
8	重要	2	1.7
9	食事	2	1.7
10	必要	2	1.7

(上位10件を表示)

フィルタ条件
◆品詞:名詞

- 共通の単語は「看護師」「患者」「看護」「必要」「貴重」「存在」だった。
- 「看護」は他の5つの単語に比べ割合に大きな差を示し、ポジティブな感情:ネガティブな感情 = 2.0:5.0 と2.5倍だった。

単語頻度解析

単語頻度の割合に大きな差を示した「看護」に着目し、原文で内容を確認した。

原文

	『ポジティブな感情の学生』	『ネガティブな感情の学生』
看護	<ul style="list-style-type: none">・細やかな気遣いは、医療職の中でも看護の特徴であるように感じた。・人同士のつながりによる看護というものをすごく感じる事ができた。・人間にとって呼吸することや食事することは必須の活動であるため、看護師は慎重に正確に看護する必要があると感じた。	<ul style="list-style-type: none">・患者が入院してからはじめに行われる看護は重要だと思った。・自分の目標とする看護を具体的に考える貴重な一日となった。・医療は多くの機械や装置に支えられていてもケアの基本は看護であり、看護師の存在がなければ医療における信頼関係は成り立たないのだと思った。

- 『ポジティブな感情の学生』と『ネガティブな感情の学生』は、感情に関わらずそれぞれ【学んだこと】があり、看護師の働く姿を見て感じ取った「看護」をありのままに記述した。

ことばネットワーク

カテゴリデータ作成ツール

分かち書き : オリジナルテキスト
カテゴリルール名: 新規

カテゴリチェック表

カテゴリ追加	カテゴリ削除	カテゴリ順	自動ソート	表示切替	全カテゴリについて
		多い順	<input type="checkbox"/>	文章単位	<input type="radio"/>
		少ない順	<input type="checkbox"/>	行単位	<input type="radio"/>
		ルール順	<input type="checkbox"/>		<input type="radio"/>
		名前順	<input type="checkbox"/>		<input type="radio"/>

ファイルID	行ID	文章ID	ID	原文	ポジティブ	ネガティブ
1	1	-1	4	学生は患者が前	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
1	2	-1	4	学生は病棟柄ボデ	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
1	3	-1	12	学生は看護師は	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
1	4	-1	14	学生は看護師が	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1	5	-1	14	学生は患者の詳し	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1	6	-1	14	学生は医師よりも	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1	7	-1	16	学生は医療は多く	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
1	8	-1	16	学生は看護師が	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
1	9	-1	16	学生は看護師は	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
1	10	-1	16	学生は患者でも看	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
1	11	-1	26	学生は1年目看	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
1	12	-1	37	学生は看護師に	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1	13	-1	37	学生は自分の中の	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1	14	-1	37	学生は看護師に	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

←カテゴリルール編集へ 統計情報の表示 (動作が遅くなります)

属性の生成 チェック表ファイル保存 カテゴリデータ生成

閉じる

『ポジティブな感情の学生』と『ネガティブな感情の学生』をそれぞれ属性にして分析するため、前処理で属性生成の作業を行った。

『ポジティブな感情の学生』の属性名 = 「感情ポジティブ」

『ネガティブな感情の学生』の属性名 = 「感情ネガティブ」

新たに属性を作ることによって、データ数に偏りがあっても話題分析が可能となるため⁵⁾、ことばネットワーク分析を行った。

【学んだこと】の考察

- 『ポジティブな感情の学生』と『ネガティブな感情の学生』が【学んだこと】は、「看護師」「患者」「看護」「必要」「貴重」「存在」の単語で共通した。「看護」は他の5つの単語に比べ単語頻度の割合に大きな差を示し、その差は2.5倍だったが、感情に関係なく看護師の働く姿を見て感じ取った「看護」をありのままに記述していた。
- 『ポジティブな感情の学生』は、人と人との繋がりから【学んだこと】を取り入れ、『ネガティブな感情の学生』は、具体的な看護活動から抽象的に看護を捉えることで【学んだこと】を取り入れていた。
- 先行研究では、実習指導者の働く姿が看護職としてのモデルとなり、学生は幅広い看護活動を学びとして捉えることが明らかになっている⁶⁾。本研究でも、感情に関係なく【学んだこと】を取り入れる点で類似していた。



【学んだこと】は感情に関係なくあるとわかったため、【すべきこと】は全データを用いて分析を行った。

係り受け頻度解析

原文では「～したい」「～できるようになりたい」という表現が多かったため、述語属性フィルタで「可能・要望・容易」を抽出するよう設定し、係り受け頻度解析を行った。

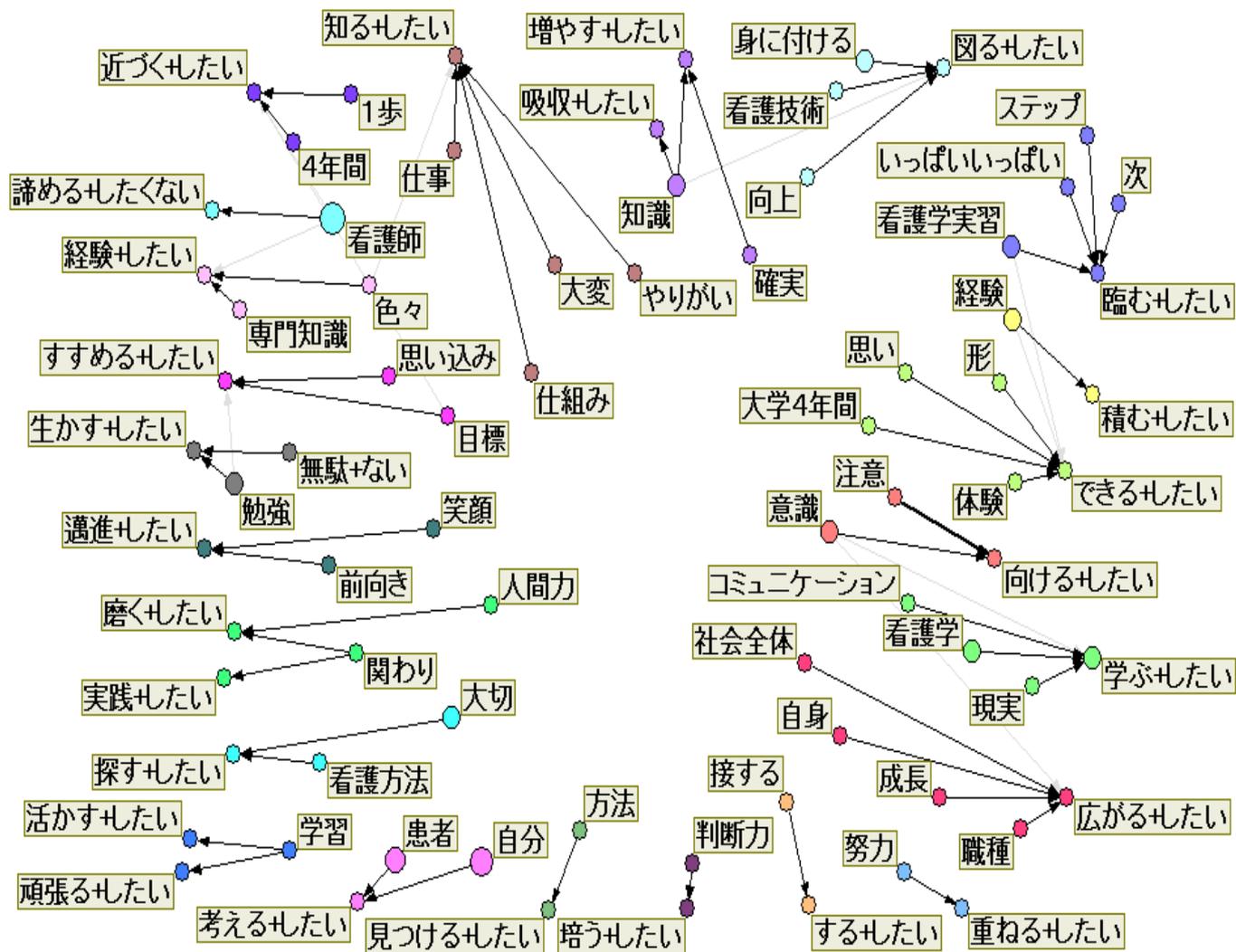
表12. 述語属性「可能・要望・容易」による係り受け頻度解析の内訳(割合)

可能	要望	容易	合計
9 (12.7%)	62 (87.3%)	0 (0.0%)	71 (100.0%)

➤ 71の係り受け関係があり、述語属性「要望」62(87.3%)が大半を占めていた。

述語属性「要望」の「～したい」はどのような単語に係り受けしているのかを詳しく知るため、ことばネットワーク分析を行った。

ことばネットワーク



ネットワーク設定

- ◆ 係り受け頻度を抽出
- ◆ 品詞設定: 行動
- ◆ 頻度: 1回以上
- ◆ 述語属性: 要望

- 23のクラスタが得られた。
- 「注意-向きたい」は頻度が2で、それ以外は頻度が1であった。
- 【すべきこと】は多様であることがわかった。

図5. ことばネットワークによる述語属性「要望」との係り受け関係図

【すべきこと】の考察

➤ この道で生きていくための決意や覚悟が決まると、看護師になるための学習者へと移行し、学生は学生生活や日常生活で何をすべきかがわかっていった。

ロール
モデル
への憧れ

- ・1歩ずつ近づきたい
- ・4年間で近づきたい
- ・看護師に近づきたい
- ・目標に近づきたい

現実を
もっと
知りたい

- ・現実を学びたい
- ・やりがいを知りたい
- ・大変さを知りたい

看護師に
なるため
前進
したい

- ・前向きに邁進したい
- ・努力を重ねたい
- ・目標を進めたい
- ・看護師を諦めたくない

学生生活で【すべきこと】

- ・コミュニケーションを学びたい
- ・患者を考えるようにしたい
- ・知識や経験を積みたい

日常生活で【すべきこと】

- ・人間力を磨きたい
- ・判断力を培いたい
- ・無駄のない生活をしたい

シーソーモデル

動機

負担

【体験したこと】を看護と捉える

看護師になるため前進したい

現実をもっと知りたい

ロールモデルへの憧れ

やりがいのある仕事

細やかな気遣いに感動

看護師が親身になって看護を提供する場面を見た

現実を見たことで
ショックを受ける

患者と1対1の
会話の場面

看護師は忙しい

看護師と同じような気遣い
が出来るかどうか不安

自己決定心

看護師を諦めたくない

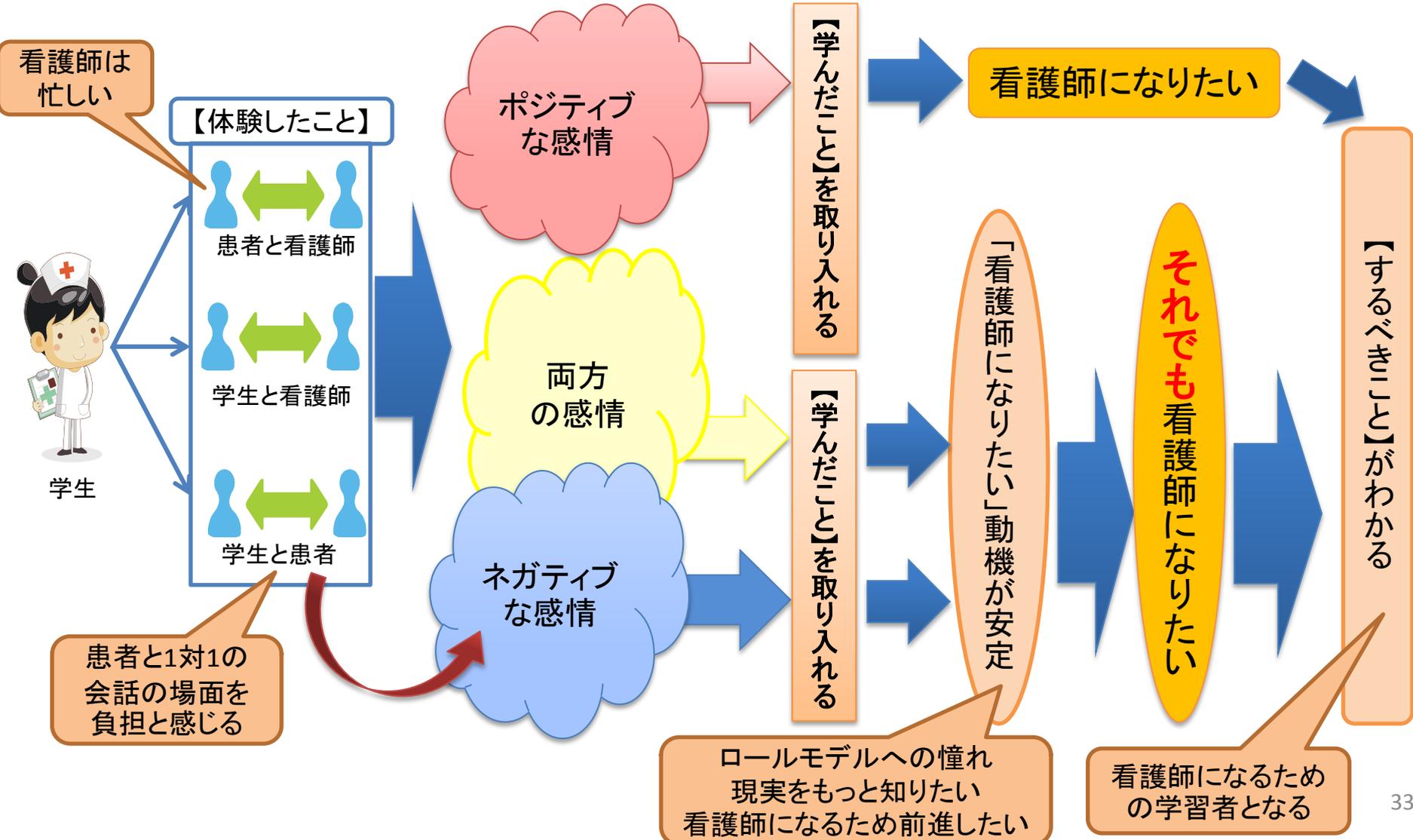
【学んだこと】が多いと
動機が安定する

【学んだこと】が少ないと
負担へ傾いてしまう

- 学生がどんな感情を抱いたとしても「それでも看護師になりたい」と思う「動機」とそれを妨げる「負担」の要因をシーソーモデル⁷⁾で示した。
- 動機を安定させるには、①動機の要因を多くする、②支柱を動機の方へ動かす、③負担の要因を減らす、のいずれかであるが、特に【学んだこと】を多く取り入れることで支柱を動かすことができ、より安定させることが可能となる。

概念図

「看護師になりたい」と思う過程



結論

1. 早期体験実習を行った学生は、ポジティブな感情とネガティブな感情を表出した。
2. 感情によって学生の【体験したこと】に違いがあった。
『ポジティブな感情の学生』は、主に看護師を通して様々な体験をしたが、
『ネガティブな感情の学生』は、忙しい看護師の姿を見たり、初めての
実習で患者と1対1で会話する体験をした。
3. 感情に関係なく学生には【学んだこと】があった。
『ポジティブな感情の学生』は、人と人との繋がりから【学んだこと】を取り
入れ、『ネガティブな感情の学生』は、具体的な看護活動から抽象的に
看護を捉えることで【学んだこと】を取り入れていた。
4. 感情によって学生が看護師になりたいと思う過程には違いがあった。
感情に関係なく学生は【学んだこと】を取り入れることで看護師になりたい
思いが膨らむが、『ネガティブな感情の学生』は【学んだこと】をさらに多く
取り入れたり、ロールモデルに憧れを抱き、現実をもっと知りたい、
看護師になるために前進したいと決意し、「それでも看護師になりたい」
気持ちを強固にしていた。

今後の展望

- 本研究では、早期体験実習記録のテキストマイニングを行った。実習記録は、実習を振り返り学んだこと、気づいたこと、感じたこと、反省や今後の課題が混在し記述されていたため、事前処理として看護研究者によるカテゴリー分類を行うことで、それぞれのカテゴリーごとに細かく分析することが出来た。
- また、調査対象には属性がなかったが、評判分析によって『ポジティブな感情の学生』と『ネガティブな感情の学生』に分けて比較しながら分析することで、感情を軸として学生が「看護師になりたい」と思う過程を明らかにすることができた。
- 今回は実習記録を対象に研究を行ったが、自由記述文であり、感情を表出しなかった学生もいたためデータ量が限られ、一般化は困難だった。
- 今後は、今回の結果をもとに、学年を経るにつれて学生が「看護師になりたい」気持ちがどのような変化をたどるかを知るため、縦断研究を行っていきたい。

引用・参考文献

- 1)厚生労働省:第七次看護職員需給見通しに関する検討会報告, 2011.
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000000z68f.html>
- 2)白鳥さつき:看護大学性が看護職を自己の職業と決定するまでのプロセスの構造, 日本看護研究学会雑誌, 32(1), 2009.
- 3)宇古田芙美, 大黒理恵, 佐藤, 初美, 後藤孝子, 齋藤やよい:早期体験実習が看護学生の職業的アイデンティティ形成に及ぼす効果, お茶の水看護学雑誌, 4(1), 2009.
- 4)平成25年度 東京医科歯科大学医学部保健衛生学科看護学専攻 基礎看護学実習要項.
- 5)Text Mining Studio チュートリアル バージョン4.1, 株式会社 数理システム, 2001.
- 6)皆川敦子, 北村眞弓, 三好陽子, 他:早期体験実習における看護学生の学び
—早期体験実習後におけるレポートからの分析—, 日本看護医療学会雑誌, 8(2), 2006.
- 7)中川米造, 宗像恒次:医療・健康心理学, 福村出版, 1992.
- 8)浅井直美, 小林瑞枝, 荒井真紀子, 齋藤やよい:看護早期体験実習における学生の意味化した経験の構造, Kitakanto Medical Journal, 57, 2007.
- 9)川口賀津子, 金山正子, 山下千波, 他:早期体験実習で看護学生が捉えた「看護の役割」,
日本看護学会論文集 看護教育, 39, 2008.
- 10)相原優子, 勝山貴美子, 渡邊順子, 他:看護学生が捉えた早期体験実習における体験の意味, 日本看護医療学会雑誌, 7(2), 2005.
- 11)田村由美:リフレクションとポートフォリオの看護実践における活用 看護実践における活用,
看護研究, 41(3), 2008.
- 12)服部兼敏:テキストマイニングで広がる看護の世界, ナカニシヤ出版, 2010.